

## 私たちの提案

# 白馬山麓センターの焼却施設を、 継続して使いましょう。



- ▶ 山麓センターの施設は、あと10年は使えます
- ▶ 借金が無くなり、村の財政にプラス  
(そのお金で、育児・教育、高齢者福祉、観光を充実！)
- ▶ 景観も変わらず観光へのダメージもありません
- ▶ 排ガスによる空気の汚染もひどくなりません
- ▶ 建設をめぐるの、平行線の議論が解消する

## 1. 今ある施設はまだまだ使えます

2巡目の説明会で広域連合は耐用年数を15~20年と説明し、山麓の施設はもう寿命だと説明しましたが本当でしょうか？

平成13年に新設当時の約倍額の**9億円余をかけてダイオキシン対策**と炉の改修を行ない、受け入れ設備以外は**新品同様**にしました。

その時点で、計画的な施設整備に努め、できるだけ延命化を図るべきとの考えで、**平成32年までの整備計画**を作成しています。

そう考えて進めてきたことが、無になるのは残念ですね！

## 2. もったいない！

広域連合の計画では、新施設の事業費を42.4億円と見込んでいます。付帯工事や強固な基礎工事などを考えると、**事業費は大幅に上昇する**でしょう。山麓の施設を壊すのにも2.25億円(6/16広域回答@500万円/t)~数億円(実勢価格)もかかります。平成13年の**改修の借金はまだ返済中**でもあり、「もったいない」の一言です。

現有施設を使えば、費用はかかりません。維持管理費は白馬小谷で年間1.7億円ですみます。

およそ10年後に新施設の建設が考えられますが、この間ごみの分別と減量に取り組めば住民説明会資料で示された22t/日よりずっと小さな施設で済みます。当然建設工事費も大幅に少なくなります。

## 3. 建設強行は観光産業にダメージ

“自然観光地・白馬”(清涼な空気、清流や雄大な山岳景観)を世界に発信し、外国人誘致(インバウンド)事業にも力を注いでいるさなかです。その枕元に現有施設の倍以上の新ごみ焼却施設を建設し、**2.5倍のごみを燃やし**、安全性に問題がある**大量の排ガスを撒き散らす**ことは自然観光地・白馬にとって打撃となることは明らかです。

「地球温暖化防止」「CO2削減」が国際世論の現在、今の流れを一旦止める勇気と決断が求められているのではないのでしょうか？

### 活動報告

- 9/26 広域連合議会「シンポジウム形式での3巡目の住民説明会」開催の陳情書提出。
- 9/30 9月議会冒頭の村長挨拶への抗議と質問を提出。外国人向けの英文のアピールを公表し、海外のプレスに送信。(アピールの文書は、連協のホームページに掲載。)
- 10/2 ごみ連協主催の勉強会を行い、2巡目の住民説明会で不明朗な点を学ぶ。
- 10/3 太田村長との面談。
- 10/4 宮田会長が、大町で行なわれたごみ減量シンポジウムにパネラーとして参加

### 新シリーズ 村民の声

は紙面の都合上、次号に掲載します。

10/1の勉強会。多数のご参加、そしてカンパ：2,1850円ありがとうございました！

【ミニ村民の声】白馬の売りは空に張り詰めたおいしい空気と素晴らしい景観です。絶対に損なってははいけません。子供たちにはしっかりと残していきたいと思います。(FAXあしがどう！...編集部の声)

そして

# 寿命が来た時に、広域の計画の 半分以下の費用で作りましょう。



- ▶ 寿命が来るまでにゴミの量を減らしましょう。
- ▶ 行政、住民協働でゴミ処理施設の計画を検討しましょう。
- ▶ 減量に見合った大きさの焼却施設を、  
厳しい排ガス基準値で、安くて実績のある  
メーカーに発注しましょう。

## ● ゴミ政策を確立してから、新ゴミ焼却施設建設を考えましょう！

ゴミ問題の課題の一つは、ゴミの総量をどれだけ少なくするか、ゴミの分別と減量をどう進めるかです。下記の計画経過を見ても、住民と意見交換をする時間は十分ありました。新焼却施設建設にのみ熱中して、住民とのキャッチボールを置き去りにしてきた広域連合の責任は重大ですが、今からでも遅くはありません。

先進自治体の取り組みを学び、まず観光地白馬にふさわしいゴミ半減などの「ゴミ政策」を協働で作って実行することが重要です。新ゴミ焼却施設の建設は、その後でも遅くはないのです。

広域化の流れ

平成9年厚生省が「ゴミ処理の広域化計画について」を各都道府県に通達

平成15年北ア広域の「ゴミ処理広域化基本構想」を策定

平成17年「ゴミ処理広域化基本計画」を策定

**\* 大型化を目指した国の施策が変わり、大町市、白馬・小谷個別での新設が可能となる。**

平成18年「ゴミ処理施設用地選定委員会」を設置

全国の情報  
調べました！

### 30トン=8億3千7百万円 (串本町)

私たちの調査によると、白馬村の姉妹都市太地町の隣の串本町では、1日30トンのごみを8時間で焼却するゴミ焼却施設を、平成18年に8億3千7百万円で建設しました。(基礎工事、場内舗装、フェンス工事等を含む)。この施設は1日11時間燃やせば48トンのゴミを燃やせます。

なぜこんなに値段が違ふの？

### 48トン=33億3千万円 (北ア広域連合 / 今回の計画)

北アルプス広域連合が計画しているゴミ焼却施設は48トンですから同じ能力です。広域連合の見積りは33億3千万円ですから、その結果、仕様が若干異なりますが、4分の1のコストで建設したということになります。

割り引いて考えても、33億3千万円は2分の1にコストダウンすることは可能なのです。

ゴミ減量が進めば、さらにコストダウン!!!になることは推して知るべしですネ。

串本町は、ゴミ焼却施設建設に際して

- ① 地元3地区及び漁業協同組合2組合から各3名(即ち、民間から15名)、行政等を含めて23名の検討委員会を設立した
- ② コンサルタントに頼らずに自分たちで調査・検討した
- ③ 通常的设计図書による指名入札を排し、性能発注方式の一般競争入札を行った
- ④ 13社の応札があり、價格的、技術的に判断して業者を決めています

どうして?  
安くできたの?

その結果、広域連合の計画の**4分の1の価格**で、広域連合より**厳しい排ガス基準**で、建設することができました。  
(仕様が若干異なります)



白馬新ゴミ処理施設を考える連絡協議会ニュース

発行：白馬新ゴミ処理施設を考える連絡協議会(会長：宮田温巴)

白馬村北城八方口5897-1(たきみや) <事務局> TEL: 0261-72-2527 FAX: 0261-72-7465

皆様の一層のご支援をお願いいたします！

カンパ振込先 ●八十二銀行白馬支店/普通口座:137464  
 名義:ハクバゴミモンダイカンパ ●ゆうちょ銀行/口座記号番号  
 00520-2-83674/名義:白馬新ゴミ処理施設を考える連絡協議会